

## 第6章 方策の推進要素

新水道ビジョンでは、将来を見据えた水道の理想像を描き、「安全」、「強靱」、「持続」の観点から、その理想像の具現化が図られるよう、関係者が取り組むべき事項の方向性及び当面の目標点を示すこととしました。

水道の理想像の具現化には、水道関係者において、新水道ビジョンで示す取り組みの方向性に沿った方策を積極的に推進することが求められます。しかし、我が国の水道を取り巻く環境は、すでに人口減少社会の中にあり、東日本大震災の経験を教訓に抜本的な危機管理体制の見直しが求められます。方策推進の過程では相当な困難を強いるものとなっており、給水人口、給水量ともに減少傾向にあります。平成25年時点では、未だピーク時に近い値を維持しています。特に水道事業者は水道施設や料金収入、職員数やその専門性の面において、対応余力を残しているうちに、適切な方向性を定め、将来の水道の理想像の実現に向けた取り組みを開始しなければなりません。

新水道ビジョンでは、水道関係者が取り組む方策の推進を停滞させることなく水道の理想像を具現化できるよう、方策の主要な推進要素として「挑戦」と「連携」を位置付け、取り組みの推進に向けて邁進することとします。

### 6.1 挑戦

新水道ビジョンで示す水道の理想像における「安全」、「強靱」、「持続」の概念は、これまでの水道においても重要な概念であり、水道関係者は、常に、水道に「安全」、「強靱」、「持続」を求めて様々な取り組みを進めてきました。しかし、これからの水道は、外部環境、内部環境ともに、これまでとは全く異なる状況の下、水の供給を行わなければならない、取り組みの方向性で示したそれぞれの事項の推進は水道関係者にとっていずれも容易ではありません。

将来の我が国の総人口が半数程度にまで減少した時代に、水道が理想の姿をもって、地域の利用者の信頼を得て水を供給し続けるためには、これまでの右肩上がりの常識を排し、新たな事業環境に順応し適応すべく、関係者が挑戦する意識・姿勢をもって取り組みを進める必要があります。

このため、新水道ビジョンでは、これまで経験してきた様々な事故、事件等の事例を教訓に前向きな対応で調査研究を怠らず、水道関係者の「挑戦する意識・姿勢」を重要視し、これを「挑戦」として方策の推進要素に位置付けることとします。

### 6.2 連携

水道関係者の取り組みの推進について、特に小規模な水道事業者等において、単独での対応に限界がある場合には、近隣の水道事業者や水道用水供給事業者、関係行政機関、民間事業者等立場を越えて連携することが必要です。一方で、都道府県や中核となる水道事業者等には、地域全体の最適化の観点から、連携体制への積極的な関与が期待されます。

## 第6章 方策の推進要素

---

水道サービスを提供する主体である水道事業者や自家用水道の設置者は、水道サービスを享受する住民との積極的なコミュニケーションを図り、住民の理解と協力を得て方策に取り組んでいく意識・姿勢が必要です。

新水道ビジョンでは、挑戦の意識・姿勢を持ったそれぞれの主体が、自らが果たすべき使命、またその置かれた状況を十分に認識しつつ、互いに連携し合うことで、方策の推進において、相乗的効果の発現、効率性の向上に加え、新たな発想による展開を重要視し、これを「連携」として方策の推進要素に位置付けることとします。